

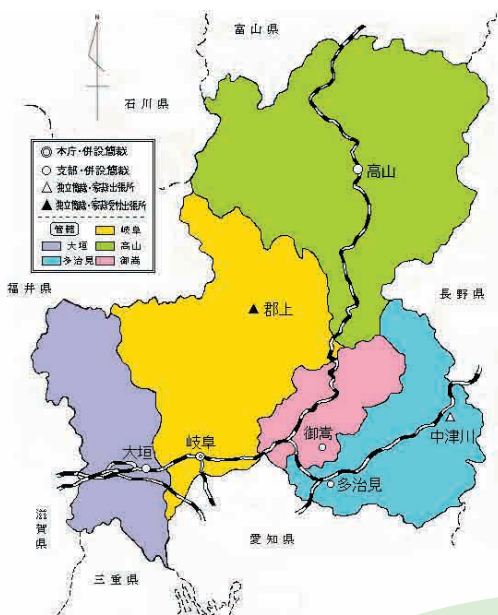
裁判所めぐり

岐阜地方・家庭裁判所

～岐阜の紹介～

岐阜県は、都道府県で7番目に広く、日本のほぼ中央に位置しています。北部の飛騨地域は、御嶽山、乗鞍岳、奥穂高岳など、標高3,000メートルを超える山々が連なっており、一方、南部の美濃地域は、濃尾平野に木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）が流れています。豊かな自然に恵まれるとともに、各所では、歴史、伝統、文化が息づいています。

岐阜県内には、岐阜市にある岐阜地方・家庭裁判所本庁をはじめ、4つの支部（大垣、高山、多治見、御高）と2つの家裁出張所・独立簡易裁判所（郡上、中津川）があります。裁判所の管轄区域ごとに「歴史、伝統、文化」にスポットを当てて岐阜県を紹介します。

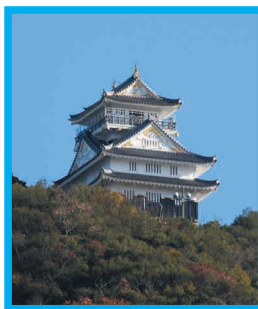


岐阜

岐阜城は、標高329メートルの金華山の山頂に位置し、難攻不落の城としても知られ、かつては「美濃（※）を制する者は天下を制す」と言われるほどでした。戦国時代は、斎藤道三が居城としていました。

永禄10年（1567年）には、織田信長がこの城を攻略し、城主となり、地名を「岐阜」に、城を「岐阜城」に改め、天下統一の本拠地としたと言われています。再現された岐阜城天守閣からは、かつて信長が天下を見晴らしたように、長良川を含めた岐阜市内の壮大な眺望を楽しむことができます。

※美濃・・・岐阜市を含む岐阜県南部の地域。



岐阜城
(ぎふじょう)



長良川から望む金華山

～模擬裁判の様子～

岐阜地裁本庁では、裁判所への関心や理解を深めていただけるように様々な取組みを行っています。例えば、夏休みには、小学5、6年生を対象に模擬裁判、模擬評議を行っています。模擬裁判では、子供たちに、法廷内で裁判官、検察官、弁護士などの役を演じてもらい、その後の評議では、法曹のサポートを受けつつ、有罪か無罪かを検討してもらいます。子供たちは、活発に意見を言い合って、大いに盛り上がりを見せています。



墨俣城 (すのまたじょう)



大垣市は、岐阜県の西部に位置し、松尾芭蕉の「奥の細道」むすびの地としても知られているところです。大垣市墨俣町にある墨俣一夜城は、永禄9年(1566年)に木下藤吉郎(のちの豊臣秀吉)が一夜にして建てたとされる砦的な城で、織田信長は、この城を拠点に美濃を制覇し、木下藤吉郎は、この築城をきっかけに出世をしようとしたと言われています。

当時の一夜城は残っておらず、その城跡に城郭天守の体裁を整えた墨俣一夜城が建設され、歴史資料館として当時の一夜城作戦などの歴史を知ることができます。城下を流れる犀川越しに見る天守の姿は美しく、春には満開の桜に囲まれた天守を見ることができます。

おおがき
大垣

たかやま
高山

岐阜県飛騨地方に位置する高山市の中心市街地は、江戸時代から城下町、商人町として発展を遂げてきました。江戸時代末期から明治中期に建てられた屋敷などが立ち並ぶ「古い町並み」の景観は、国選定重要伝統的建造物群保存地区として保護されています。

江戸時代から続く風情ある外観は、高山の観光スポットとして、国内外から注目を集めています。

また、「古い町並み」には、飛騨牛、朴葉味噌、高山ラーメン、みたらし団子などのお店も集結しています。一帯を散策することで、高山名物を堪能できます。

古い町並み (ふるいまちなみ)



古い町並み 提供：高山市

施釉磁器モザイクタイル (せゆうじきもざいくたいる)



モザイクタイルミュージアム 提供：多治見市

たじみ
多治見

多治見市は、施釉(※)磁器(せゆうじき)モザイクタイル発祥の地として、全国一の生産量を誇ります。その多治見市により平成28年に設置されたのが多治見市モザイクタイルミュージアムです。外観はタイルの原料を掘り出す「粘土山」を思わせる形をしています。膨大なタイルのコレクションを基盤に、この地域で培われてきたタイルの情報や知識、技術を発信しています。館内には、タイルを使用したアート作品が多く展示され、タイルの楽しさに触れることができます。

※施釉・・・素焼きした磁器に釉薬(ゆうやく)を付けて焼き、ガラス状のツヤツヤした表面に仕上げるものです。

大寺山願興寺 (おおてらさんがんこうじ)



大寺山願興寺 提供：御嵩町

み たけ
御嵩

弘仁6年(815年)、伝教大師によって創建されたといわれる天台宗の古刹「大寺山願興寺」。二度にわたる兵火により本堂等は焼失しましたが、幸いにも本尊・薬師如来像をはじめ諸仏像は焼失をまぬがれました。本堂も地頭・纈纈源吾盛康の力によって再興され、二度目の焼失後も近在の農民・玉置与次郎と市場左衛門太郎らの発願により、素朴な造りではあるものの、板一枚、柱一本を持ち寄って見事再建されました。

現在、薬師如来像ほか二十四躰及び本堂が国指定の重要文化財に、また、鐘楼門が県指定文化財に指定されています。

ぐ じょう
郡上

郡上おどりは、江戸時代に始まったもので、江戸時代から400年にわたって城下町郡上八幡で歌い踊り続けられてきた一大伝統行事で、国重要無形民俗文化財に指定されています。7月中旬から9月初旬の2か月間に約30夜にわたって開催される日本一長期間の祭りです。踊り会場はひと夏で市街地を一巡し、町並みの中や広場で踊る日もあれば、昔ながらに神社の境内が会場になる日もあります。年齢、性別、国籍、経験関係なく誰でも踊りの輪に加わることができるのが人気です。

クライマックスは、お盆(8/13~16)の4日間の「徹夜おどり」。名前のとおり、夜20時から、翌朝4時5時頃まで踊り明かします。

郡上おどり (ぐじょうおどり)



郡上おどり 提供：郡上市

馬籠宿 (まごめじゆく)



馬籠宿 提供：中津川市

な か つ が わ
中津川

馬籠宿は、江戸時代の参勤交代で多くの人が行きつた中山道の宿場町です。石畳が敷かれた坂道は、今も江戸時代の面影が残ります。日常から離れ、水のせせらぎ、小鳥のさえずり、街道を横切る風に、癒されます。

馬籠は、文豪・島崎藤村の出生地でもあります。生家跡に建つ施設では、「夜明け前」や「東方の門」などの作品原稿や遺愛品が展示され、終焉の地、神奈川県大磯町の書斎が復元されるなど、一巡することで藤村の生涯をたどることができます。

また、馬籠宿では、焼きたての煎餅やおやき、一つの串に丸めた団子が三つ並んだ五平餅など様々なグルメも楽しめます。